

合同墓 高まる人気



安い料金魅力 年金生活の厳しさを反映

「老後資金2千万円不足問題」で参院選の大きな争点となった年金問題。年金を頼りに暮らす高齢者の生活の厳しさは、配偶者らの遺骨を料金の安い合同墓に埋葬する人が増えている傾向からもうかがえる。(編集委員 福田淳一)

三笠市の郊外にある北海道中央霊園。6月、永代供養付き合同墓「結の苑」を拡張した。1体の埋葬は3万9千円で追加費用は一切かからない。結の苑は5年前、20年で2千体の埋葬を想定して開設した。だが、札幌と周辺、全国から埋葬された遺骨は1700体を突破。新たに5千体を増設し、計7千体分を埋葬できるようにした。

北海道中央霊園の武田寛理事長は、料金の安さに加え「生活に不安を感じている年金生活者が多いことが背景にあります」と人気の理由を説明する。

夫が亡くなり、年金が大きく減った高齢女性らが、管理費のかかるお寺の納骨堂から遺骨を移すケースが増えているという。生前予約も約650人に達しており、武田理事長は「年金生活者の暮らしが年々厳しくなる中で、一般的なお墓を建てる費用を用意できない高齢者が、将来の不安を解消したいと申し込む例も目立ちます」と話している。

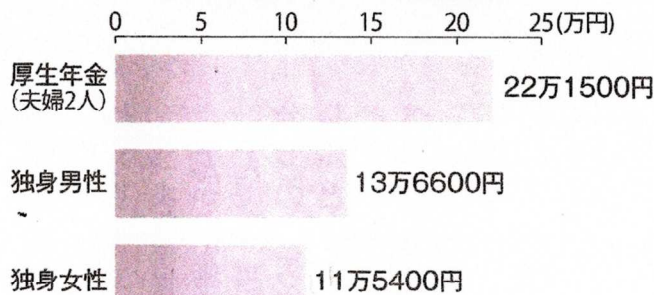
苦しい高齢女性

今回、問題となった金融庁の報告書は、年金が収入の大半で夫が65歳以上、妻が60歳以上の無職2人世帯は月に5万円以上が不足し、20年で1300万円、30年で2千万円が不足すると試算した。公的年金の月額が、独身では男性に比べて女性が低い傾向。女性は年額50万円(月額4万1600円)未満の人が

12%。合同墓に関心が集まるように、夫に先立たれた高齢女性が生活苦に陥る傾向が見て取れる。厚生労働省の調査によると、全国の生活保護世帯のうち、65歳以上の高齢者世帯は53%(2017年度)。生活保護を受ける高齢者世帯のうち1人暮らしは90%を占める。1人暮らしの高齢者は全国で約600万人(15年)で、このうち女性は男性のおよそ2倍。40代後半の団塊ジュニアが65歳以上となる40年には、全国で男女合わせて900万人に増える見通しIIグラフ。

道内は1人暮らしの高齢者が目立つ。自由気ままな老後を楽しむ「おひとりさま」という呼び方は定着してきたが、今後、増える1人暮らしの高齢者が抱える不安にも目を向ける必要がありそうだ。

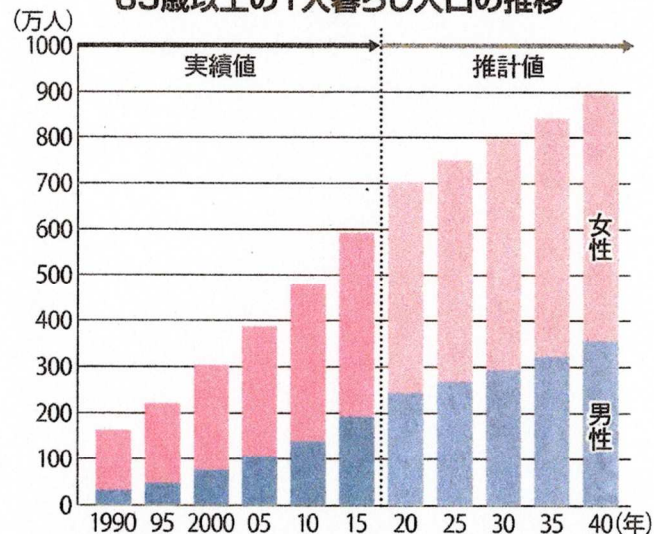
公的年金の収入(月額概数)



※厚生年金は夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準ケースで2019年度分。独身男性、独身女性は収入が公的年金のみの平均額(17年、厚生労働省の年金制度基礎調査)



65歳以上の1人暮らし人口の推移



※2018年版高齢社会白書より作成。2015年までは国勢調査、20年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

くらし

シニア世代